

---

# アーマードコアfaローゼンタール社員の奮闘記

コジマント

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

アーマードコアファローゼンタール社員の奮闘記

### 【Nコード】

N2255K

### 【作者名】

コジマント

### 【あらすじ】

何処にでもいるような普通の高校生だった主人公だがトラックに轢かれ た事によりA C f aの世界に来てしまった。

彼は、生き残ることができるのか？

そして彼の answerは？

## プロローグ（前書き）

初めましてコジマントと申します。今作が初投稿となりますがど  
うぞよろしくおね がいいいたします。

こんな作品ですが、少しでも楽しんでいただければうれしいです。  
ではアーマドコアファローゼンタール社員の奮闘記ひじまりです。

## プロローグ

### プロローグ

俺の名は門倉雅人<sup>かどくらまさひと</sup>ACが好きで、ちょっとオタクな普通の高校2年の17歳だ。

最近、特にfaにハマッている。あのスピード感、ストーリー、キャラ、メチャクチャおもしろい。

もちろん全ルートもクリアしたし、ミッションもオールSとったしな。

主に愛機のフレームにはよくローゼンタール社のパーツを良く使う。カッコイイしな。

そんな訳で学校の帰り道にいつものように自転車に乗りながらフロム脳でアセンやキャラなどを

妄想していたのが仇となったのだろう。横断歩道を渡っていたら急にトラックが突っ込んできて

轢かれた。しかも10tトラックに。

轢かれたときベタな話だが、今までの思いでが走馬灯のように駆け巡ったよマジで。主にACの事

とかACの事とか。

自分では、よく分かんが頭からかなり出血ポイしな、痛みはないが体が思うように全く動かん

し意識が段々朦朧としてきた、多分死んだなこりゃ。

それで朦朧とする意識の中で俺は、

(あつノブリス・オブリージュ作りかけだったなー)

なんて、くだらないことを考えてた。他にねーのかよ俺はと自分で思った。

そんなこんなで段々と意識が遠のいていきそして俺は目の前が真っ暗になった。

(これが死ってやつか……………)

(……………なんてな)

ヒソヒソ

(ん?)

「……………取付手術は、成……………だな」

「はい。……………検査……………結……………はとても優……………ので」

(なんだ?)

俺はたしかトラックに轢かれて死んだはずなんだが、どうやら生きていたようだ。

(ここは病院か?)

俺は体が鉛のように重いし全身に痛かったが何とか首だけを動かし周りをみてみた。

そしたら白い天井に白い床に白いカーテン、ナースコールに点滴が見えた。俺の予想道理に

ここは病院らしい。

そして俺は話し声が聞こえた方を向いてみると、そこには黒いスーツを着た白髪混じりで黒髪な、ヨーロッパ系の40代くらいの男と白衣を着た色白でメガネをつけたヨーロッパ系の30代くらい

の医者っぽい男が話し合っていた。

(日本の病院に外人の医者なんて珍しいな)

二人を見ながらそんな事を考えていると

「ん?..おつ、彼がおきたようだな」

「えっ?ああ本当ですね」

スーツを着たおっさんが気付き俺は体起こそうとするが

「イタッ」

体の痛みに思わず声を出してしまつと

「あつ無理に動かない方がいいですよ」

と言つて白衣を着た男が起き上がりかけてた俺の体を丁寧にベッドへ押し戻すと、ベッドの脇に着い たボタンを押すとベッドが腰の辺りから起き上がった。

「すみません」

「いえいえ、あまり無理をしない方がいいですよ。けっこうな怪我ですから、気分は？」

「ええ、体があまり思うように動きませんし痛みはありますが大丈夫です」

と俺が答えると今度はスーツのおっさんが

「起きてすぐに申し訳ないが聞きたいことがあるので質問させてもらう方がいいかな？」

「いいですけど」

「では、まず君の名前は？」

「門倉 雅人です。えつとこの場合だとマサト・カドクラのほうがいいのかな？」

「OK、マサト君。では次の質問だ。君は何であんな所で倒れていたのかね？」

「あんな所？」

(普通に横断歩道で轢かれたはずなんだが?)

などと思い思わず聞き返してしまつと

「君は我が社の前で血だらけになって倒れているのをたまたま通りかかったジエラルドさんが見つけたくれたのだよ」

「へっ!？」

(い、今なんて言った!? ジエラルドさん!? ジエラルドってあのA C f aでランク5位の!? なん で!? どういうこと!? そんなのありえないだろ!!)

俺は、そんな混乱しかけた頭でなんとか言葉を振り絞り口に出した。

「わ、我が社って？」

「ああ、ローゼンタール本社だが。あつ、ちなみにここはその内部にある病室だ」

どうやらf aの世界にきてしまったようです。

あと、今気付いたんだけど首の後辺りに何か違和感があるんだけれども

.....まさかね?



## プロローグ（後書き）

あとがき

作者のコジマントです。とりあえずこれでプロローグは終了です、  
フロム脳と勢いに任せてやってしまいましたが  
後悔もしていますし、反省もしています。なにはともあれしつかり  
とこの作品を完成できるようがんばってみます。

なので、みなさんの感想、意見を取り入れてこの作品をすこしで  
も良いモノにしていきたいとおもいますので、

どうぞお願いします。

では、次回も頑張って製作しますのでよろしくお願いします。

## キャラ設定（これから増えるかも）（前書き）

いきなりだけでも、早速キャラ設定を載せてみました。これから増やす予定なんですけど過度な期待は、しないでください。

## キャラ設定（これから増えるかも）

かどくらまさと  
門倉雅人

性別 男

年齢 17歳

所属 ?

搭乗機 ?

身長 173cm、

体重 70kg

見た目 髪の毛は眉毛や耳にかからない程度に伸ばしている。  
顔は結構いい方。

その他

本作の主人公。トラックに轢かれたことによりA C f aの世  
界に来てしまった高校生。

ちよいオタでロボットモノが好き、特にアーマードコアがお  
気に入り。

好きなACはオラクル（NX版）、カスケード・レインジ、  
ナインボール（セラフも）

キャラでは有澤社長、セレンさん、ジナイーダ

## キャラ設定（これから増えるかも）（後書き）

今の所は、こんな感じで。感想で書かれていましたが、主人公のスペックはf aの世界に来る前とおんなじってことで。

設定は物語が進むに連れてちよくちよく更新していくつもりです。

0.5話「SIDE2代目」(前書き)

さて今回のお話はとある人物の視点で進みます。  
それでは、どうぞ

0、5話「SIDE2代目」

SIDE：?????

とても懐かしい夢を見た。

昔、未熟だった私を鍛え、導いてくれた我が師の夢だ。 私が師の夢を見るのは何年振りだろうか？

夢の内容は確か・・・

「……………」

「何ですか師匠？」

「いずれお前は私の後を継ぎ、そして貴族としての義務を背負うことになるだろう」

「はい……………」

「いずれお前は今の私の様に後継者を育てる時が来るだろう」

「……………」

「ときに迷い、戸惑い、道を踏み外すかもしれん」

「……」

「その時は導き、正すのが師としての役目だと思っている」

「だが、それは自分の考えを押し付けるという意味ではない」

「人にはそれぞれ戦う理由がある。愛する者の為、名誉の為、金の為、平和の為、  
等のように皆違う理由で戦っている」

「いいか……よ、答えを見つけさせる。その者が戦う理由、その力で何を望むか、  
そして何を成すか、その答えを」

「……」

「その答えが見つかった時に託すがいい……よ」

「……」

「そう……ノブリス・オブリージュを」

「わかりました。師匠」

「そうか、頼んだぞ我が弟子ジェラルドよ」

ここで夢から醒めたのだったな……

弟子か……

私も師匠のように導けるのだろうか

しかし、このような夢を見るとはな……師匠からのメッセージか？

………とっもう少しで本社に着くのだったな

ん？あれは………人が倒れてる！？

運転手！止めてくれ！

私は車から降り、倒れている人に向かって走った

ひどい傷だな、血だらけじゃないか………まだ息をしている！？

すぐに本社に連絡しろ！急げ！

6時間後………

どうやら彼の処置は無事に済んだらしい。明日には目を覚ますだろうと言っのがドクターの

見解だそうな

全くとんだ1日だな、久しぶりに師匠の夢を見たと思ったらこれだ。  
それにしても彼は一体……

ん？……なにっ！？彼にAMSプラグ取付手術を行っただと  
！？見ず知らずの人間にか！？

何？AMS適正検査で結果があ的那天と言われたセロと同等で、し  
かも上からの命令だと？  
ふざけるな！！

見た所彼は何の経験も無いただの一般人ではないか。それなのに無  
理やり戦うことを押し 付ける言っのか！

なにを考えているのだ重役たちは……

くそっ！どうすればいいだ……

## 0.5話「SIDE2代目」(後書き)

ということではジェラルド視点でした。次回から彼のリンクスとしての日々を本格的に始まらせるつもりです。

次回もお楽しみに

## 1話「覚悟きました」(前書き)

更新が遅れてすみません

こんな作品だけでも楽しみにしている人が居ると信じて投稿します  
では、どうぞ〜

## 1話「覚悟きめました」

「やっぱりかああああああああああ！！！」

え？何で叫んでいるかって？めんどいから簡単に説明するぜ

首の裏に違和感

近くの鏡で確認

変な機械ばいモノがついてた

近くにいた医者に確認

「AMSプラグですよ」

俺叫ぶ

という訳さ、え？病室では静かに？知るか！

ねえ、俺の意思は？本人の意思は？本人の承諾も無しに勝手にやるか普通？

AMSを付けられるという事は必然的に戦わなきゃいけないようになるじやなねーか！

いやだよ俺。戦いたくも無いし、死にたくも無いよ

どうすりゃいいんだよ……………

.....  
.....  
.....  
.....

ふう……こうなりや自棄だ！リンクス？なってやるうじゃねえか

ネクストだろーがAFだろーがマツハでスクラップにしてやんよ！

けど……できるかな、俺？……

いや、弱気になるな俺。そうだ俺、やれば出来るはずさ！もっとポジティブに行こう

そうさ、あの某炎の妖精だっていつてたじゃないか

頑張れ！頑張れ！できる！絶対できる！頑張れ！もっとやれるって！気持ちの問題だって！

そうさ、俺はfaでミッションをオールSにしたんだ、やれるはずさ

(この考えに到るまでの時間、約1分弱)

そんなこんなであーだこーだと考えていると

ガチャッ

「失礼する」

病室のドアが開き、20代後半くらいの子金髪でスーツ姿のイケメンな兄さんがはいつてきた。あれ？

この声聞き覚えがあるような……………

等と考えていると、スーツのおっさんが

「ああ、ジェラルドさんこんな所に何の用ですか？」

と言うと、入ってきたイケメンな兄さんが

「なに、意識が戻ったと聞いて、少し話をしたくてな」

と答えた。ん？ジェラルド？……………まじかよ、この人がジェラルドか

「すまないがこの者と少し二人きりで話したいのだが、少しばかり席を外してくれないか？」

「わかりました……………」

ガチャツ……………パタン

スーツのおっさんと医者が外に出て行った

二人きりで話？さて、どんな内容なのやら……………

「私の名はジェラルド・ジェンドリン。君の発見者だ。君は？」

「俺は、かぢじゃなくて、マサト・カドクラです。俺を見つけてここまで運んでくれたんですよね？その節は本当にありがとうございます」

「なに、人として当然のことをしたまでさ……ところで」

「はい？」

「君は何者なんだ？」

「……」

やっぱり、予想はしていたけれども聞いてくるような普通

「勝手ながら君の事を調べさせてもらったが何の情報も出なかった、戸籍は勿論その他一切の情報も」

「……」

「いきなりで悪いが聞かせてくれないか？君が何者か、そしてどうしてあそこにいたのかを」

「……」

さて、なんと答えようか。正直にトラックに轢かれて気がついたらゲームの世界にいました。なんて言ったら100%アスピナ機関に連れてかれてナニカされるんだろうな……

しかたない命の恩人に嘘をつくのは少々気が引けるがしかたない

「すみません、実は覚えてないんですよ。自分が何者か、どうしてあそこで倒れていたか。辛うじて覚えているのは自分の名前くらいです……………」

「そうか……………」

信じてくれたかな？

「すみません、なんか役に立たなくて」

「いや、君が気に病む必要は無いさ。それに謝らなければいけないのは此方の方だ」

「え？」

「もう分かっていると思うが、君にはAMSプラグが取り付けられた」

「……………」

「AMSを付ける。この行為が意味することは戦いと言う名の責務を負うことだ」

「……………」

「それを此方の勝手な理由で戦う覚悟も決まっていない見ず知らずの者に背負わせてしまったんだ、

……………本当にすまない、恨んでくれても構わない」

本当に申し訳なさそうに言ってくるジェラルドさん

「ちよつ、なに言ってるんですか？命の恩人に感謝こそしても恨む道理なんて無いじゃないですか」

「しかし」

「たしかに最初は焦りました。けど、逆に諦め半分やってやるつもりでした」

「だが・・・」

「それに行く当てもないし、ここにこのまま何にもしないで世話になるわけにもいかないじゃないですか。それになにもしないよりはリンクスになることでナニカのきっかけで思い出すと思うんです」

「・・・」

「こんなくだらない理由ですけど、これが今のところの自分が戦う理由」です」

記憶の部分は嘘だけど、他の部分は本音なんだよね・・・自分で言っという何だけれども本当にくだらねえな

「・・・」

・ ジェラルドさん、何か考え込んでるけど、さて、どうなるやら・・・

「わかった」

さっきまで黙り込んでたジェラルドさんが口を開いた

「君の覚悟は分かった。確かにくだらない理由かもしれない」

うっ、心に少しグサツと来たよ

「しかし、戦う理由は人それぞれだ、そんな理由もあっていいと思う。けれど生半可な覚悟と力で戦場に出てもすぐに死ぬだけだ」

「……………」

「だから、それ相応の覚悟と力がつくまでまで私が直々に鍛えさせてもらおう」

「えっ？」

「私の指導は厳しいぞ覚悟しておけ」

「……………」

たしかに理由はあっても覚悟は無かったからな、ランク5位に直々に鍛えてもらうんだ、これほど心強い事はないぞ

「……………はい！お願いします」

こうして俺のリンクスとしての道が始まった

## 1話「覚悟きめました」（後書き）

リアルでとても忙しく更新することができませんでした。本当に申し訳ないです

これからも色々な行事があつてガチタン並みの速度でしか更新できないとおもいますが、これからもよろしく願います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2255k/>

---

アーマードコアfaローゼンタール社員の奮闘記

2010年10月21日19時04分発行